

職員による自己評価

保護者による評価

A環境面

基準の倍の面積を有すると共に、スペース的には問題ないが傾斜の強い階段があることが課題。窓の補強や角のクッション等は施したが、不十分。

B児童への支援内容

安心と安らぎ空間の提供を心掛けており、その上で個人の特性に合わせた、きめ細やかな支援を目指しており、外出も含めた多様なプログラムに取り組んでいるが更に検討したい。

C関係機関との連携

医療や各種支援機関、学校などとの連携は一部で実施しているが、まだ不十分。

D保護者への説明責任・信頼関係

ご自宅送り時等の機会を利用して丁寧な説明を心掛けている。職員のスキルアップを通じて信頼関係を重ねていく必要性を感じる。

E非常対応

急傾斜地防災マニュアルと消防計画を策定済であるが防災訓練が不十分。

A環境面

活動スペース広さなどは高評価、手すりやスロープなどバリアフリーは通常。

B児童への支援内容

職員の専門性はやや良し、保護者のニーズ反映や課題を客観的に反映した個別支援計画の作成については高評価。活動プログラムの固定化は認められないが更に運動プログラムの充実を期待。

C事業所からの情報発信

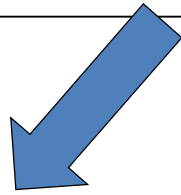
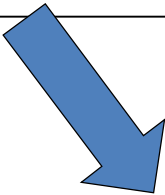
支援の内容や利用者負担等の説明は一応認められた。日頃からの意思疎通についても一定の評価はあるものの充分とまではいかない。育児に関する助言等も充分との領域には到達していない。

D非常対応

避難訓練は不十分評価。

Eその他

子どもは通所を楽しみにしているかについては高評価。保護者の評価も及第店。



事業所内での分析

【共通点】

規程面積 68 m²の2倍の面積 138 m²を確保しているため、スペース面では良好な状況といえるが、階段の勾配がきついため、移動時の安全配慮が必要。

個別支援計画については、一般的な計画策定となっており、今後はそれぞれの特性に適応した支援内容を盛り込んでいくことが重要。

他の子供たちとの交流機会の創出が全く実現出来ていない。

避難訓練等防災対策が不十分。

【相違点】

保護者への説明及び育児への助言等双方向の情報伝達が事業所が思っているほどには、保護者には伝わっていない。子どもたちが、この事業所をどのように評価しているかについては、職員の評価は低いと感じていたが、保護者を通じた子どもの意見は案外高い。職員のスキルについては多様的で判断しづらい。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・階段など改善すべき部分は認められるがスペース、シャワー室、休憩室の設置など優れた施設を整えている。
- ・保育園の運営の経験から、事故防止を第一優先課題としているため、現在まで擦り傷も含め、ケガ等の事故は全く発生していない。
- ・働いている保護者の方のために、19時までのサービス提供時間としている。
- ・階下には同一法人の運営する学童保育、ま今後は慎重な検討を踏まえ、交流機会を企画していくことが可能。

事業所の改善点

- ・事故防止を優先することもあり、外出機会があまり確保できていない、今後は体力をつけるため、退屈させないためにも、よりバリエーションのある支援プログラムを段階的に用意していく必要がある。
- ・職員が少ない状況にあるが、専門的なスキルを高めるため、様々な研修の受講や、他の事業所をはじめ関係機関との連携強化が急がれる。
- ・避難訓練等防災対策が不十分であり、早急な対策を施す必要がある。
- ・家庭連携など更に連携強化に努める。

事業所の改善への取り組み

- ・日常生活、学習、運動、戸外活動、他者との交流を通じたコミュニケーション能力の向上など、個性に見合った多様なプログラムをラムを企画し、保護者と慎重に相談の上、順次具体化していく。
- ・非常時に備えた様々な訓練を早急に実施するとともに、災害備蓄品の充実が必要。
なお、階下の学童保育所(六ッ川みどりアフタースクール)との共同での準備が効率的でもある。
- ・中学生には社会的な自立に向けて、学習、作業、会話術を活用したコミュニケーション能力の向上など、具体的な支援プログラムを提案する必要がある。
- ・新1年生には、まずは安心してくつろげる居住空間を提供することが重要。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

ややもすると、見失いがちな支援方法や設備の見直し、職員のスキルアップ、保護者の同意を事由としたプログラムの革新性の欠如など、保護者のアンケートや職員による自己点検を通じて改めて客観性をもって見直す契機となった意義は大きい。